



弘大農学生命科学部 同窓会会報

第19号

平成12年1月24日 発行
 発行 弘前大学農学生命科学部同窓会
 TEL 0172-36-2111
 FAX 0172-39-3750
 振替 02340-7-564
 印刷 (株) 笹 軽 印刷



地域に密着した大学づくりを応援

農学生命科学部同窓会会長 油 川 孝 男

同窓会員の皆様には元氣でご活躍のこととお喜び申し上げます。早いもので会長職を引き受けて2年目になりましたが、新職場に勤務したことなどを口実に特段の活動をしないまま時間だけが過ぎた感じです。幸いにして本部、各支部の事務局の方々のお骨折りにより会員相互の親睦のための交流が盛んに行われている情報に接し、大変嬉しく感謝申し上げます。この機会に、同窓会が関与した学部、全学の一連の動きについてご報告いたします。

まず、農学生命科学部の関連につきまして

は、豊川学部長の新生学部の将来を見据えた学部発展構想とその熱意を受けた形で、他学部に先駆けて「農学生命科学部後援会」を11年3月に発足させました。この間、同窓会としては準備のための発起人会に参画し協力したところです。

一方、弘前大学全体については、当学部同窓会員をはじめ多くの関係者の方々のご支援ご協力をいただきまして、11年6月5日に創立50周年記念式典と記念祝賀会が盛大裡に開催され、私をはじめ参加した皆様には50周年



弘前大学創立50周年記念会館

を喜ぶとともに改めて大学の歴史を顧み、更なる発展を心に期したことと思われました。

また、9月4日には創立50周年記念事業後援会が記念事業として進めてきた記念ホールが文京町のキャンパス内に完成し、落成式と記念祝賀会が行われました。当会館は教育並びに学術研究活動、国際交流の拠点施設とともに、各学部同窓会も含めた交流の場として活用されることを希望しています。

さらに、創立50周年の節目を迎え、全学部の参画を得て「弘前大学同窓会」も発足し、当同窓会としても設立懇談会、協議の場に当初から参加し結成にこぎ着けました。小職が農学生命科学部の同窓会長ということもあり、全学同窓会の副会長に指名されたことを改めてご報告申し上げますとともに、全学部同窓会についてもご支援ご協力をお願い致します。

さて、今日の農業情勢は、今まさしく、昭和36年に制定されて日本農業を支えてきた「農業基本法」も農業を取り巻く環境の大きな変化を背景に、11年7月16日に「食料・農業・農村基本法」に生まれ変わりました。現在は、新基本法の理念を具体化していくための政策と関連法の改正などの検討が行われているところです。

一方では、WTO（世界貿易機関）の貿易合意協定の交渉に関する各国の思惑などが毎日のように報道されているところですが、世界の食糧事情を見ますとアフリカをはじめとする開発途上国を中心に、世界の人口の7分の1にも及ぶ8億4千万人の人々が飢餓や栄養不足に苦しんでいると言われ、インドネシアでは、エルニーニョ現象による干ばつなどによって、750万人が深刻な食糧不足に直面する危険性があることが心配されています。

国内に目を転ずれば、日本人の食生活は欧米化とともに多国籍化が進むなど伝統的な日本の食文化が大幅にスタイルを変えている中で、食料自給率が41パーセントに低下し、その向上が新たな基本法に係る大きなテーマともなっています。

ちなみに、青森県で生産される農水産物の

自給率は、127パーセントで全国第4位の高い水準となっていて、農産物の生産割合は米、野菜、果実、畜産物が極めてバランスよく生産されています。これからも、本県農業が立地特性と創意工夫を最大限に活かして、関連産業とともに総合的に発展していくことによって、食料供給県として我が国はもとより世界にも貢献していくことが可能であると確信しているところですが、国の政策全体がバランスのとれた姿にすることが大事だと思います。

農業は太陽の光と土や水、空気、地下資源など地球の恵みを活用して農産物の生産を行いながら、人の生命、世界の平和、自然環境の維持にも貢献していくものであり、その大切な地球の財産を次代に引き継いでいくのも私達の役割だと思います。

本県が21世紀にさらなる発展をしていくためには、地元弘前大学の果たす役割は大きく、すでに県内外で多くの方々、各界で活躍していますが、特に農業県である本県では農学生命科学部に対して多大な期待が寄せられているところです。農学部が農学生命科学部となってから、進学希望者が増えるなどこれまで以上に評価が高まっていることに感激を覚えているところですが、先生方と学生の皆さんには、本県では県内各地で多様な経営が行われていますので、進んで現場の大地に立って作物の生命力を科学し、農業経営を体験するなど実践教育にも努め、知識と実践力を身につけた優れた人材を育成して社会に送り出させていただきよう願っています。

最近、国立大学の人員のスリム化と効率性をアップするための独立行政法人化が現実味を帯びる気配が伺われるなど社会変革の波が教育界にも押し寄せていますので、大学が進めてきた「産・学・官の連携強化」と「地域に密着した大学づくり」などの取り組みが、これまで以上に重要になってくると考えられます。会員の皆様方には、一層団結を強めていただき、同窓会としても母校を少しでも支えられる力となっていくことができるよう、これまで以上のご支援をよろしく願います。



人類共生のための大学・ 学部体制をめざして

農学生命科学部長 豊川好司

同窓生の皆様には御健勝のことと拝察致します。

弘前大学にあっては、創立50周年記念事業が全学同窓生の御協力のもとに成功裏に終わりました。工藤啓一先生が事業内容を詳しく御報告したように、私共の同窓生募金協力率が大変高く、面目を施したことをお知らせできました。このような50周年記念事業に加えて、地元青森県と弘前市からの学術国際基金助成事業が、本年度から10年間にわたって夫々5億円、1億円、合計6億円で実施されました。1年当たり6千万円の金額が弘前大学の教育、研究、国際交流など学術活性化と、地域産業科学技術の活性化に活用されます。これまでの大学の機能が国の予算のみでほとんど運営されてきたことを考えると、この大きな基金の弘前大学活性化に及ぼす効果は計りしれないものがあります。吉田豊学長が21世紀の本学の充実と発展を見据えて全学をリードし、記念事業に取り組み、これに50年の歴史を踏まえた弘前大学全学一丸となった取り組みの成果であると考えています。

扱、農学生命科学部の近況をお知らせ致します。新学部として2年目を迎えましたが、新学部に変な優秀な学生が入学しています。日本の国公立大学の農学系学部は約40あります。新学部入学生の2年間の難易度順位を平均的にみると、大体真中よりやや上位にランクされています。大都会近郊にある広島大学、岡山大学、千葉大学が直ぐ上です。なんといっても大学の教育研究を支え担うのは学生です。そして学術的社会的後継者として巣立っていきますので、本学部の明るい展開を予測できると考えています。

20世紀後半は物理学の時代でしたが、21世紀は生物学の時代と言われています。農学生命科学部の4つのキーワードである、生命、資源、農業、環境に将来を担うハイティーンが好感度で反応し、支持しています。

また農学生命科学部創設を契機に去る4月2日(1999年)をもって、弘前大学農学生命科学部後援会を設立したことをお知らせ致します。学生の保証人によるもので、入学時に3万円を納めて頂き、これを学生の教育、研究の推進、改善、充実などにどんどん還元し、学生達が厳しい勉学の中にあっても、学生生活に喜びを感じることでできる大学環境づくりを行うことを目的としています。後援会組織が学生・教職員と一体的連携によって、豊かな人格形成に求められる学園環境作りと、充実した学生生活形成の一助となる支援活動を展開していくことに大きな期待もっています。なお後援会は本会の目的に賛同するのであれば、誰でも参加できます。したがって同窓会の皆さんには、特に御協力、御参加をお願いしたいと思い、いずれ後援会からの御案内を願いたいと考えています。また、後援会の立ち上げは実質的に同窓会に行っていました。最初のことであり、会長には同窓会副会長の桜庭誠蔵氏に引き受けて頂いています。

大学の在立価値は、これからの社会の方向を予測し、それに必要な科学を進展させ、未来社会を写すパイロットの役割を果たすことと考えています。そして大学・学部は人々の必要性によって設立され、存在価値を認められて維持されてきました。真理の追究と同時に、直ぐに役立つことにも対応することが求

められています。したがって先を見通す基礎研究と技術を確立する応用研究の中で、学生には広く知識を授け、深く専門の学芸を教授・研究させ、知的、道徳的、そして应用能力を發揮させ、市民に役立つことが根本です。

本学部が教育研究の理念としている分野は人類が21世紀に解決しなければならないライフサイエンスそのものです。地球は今60億人の人口を抱え、さらに急激な増加が予測されています。緑豊かな地球環境破壊、生物・非生物資源の枯渇、人類の繁栄と心の成熟の不均衡など、全人類が直面する地球規模の諸問

題が山積しています。未来を予測することは不可能とはいえ大学はこれら諸問題を克服できる解決策を提起し、社会の期待に応えていかなければならないと考えています。私は、大学にこの問題解決に対応できるスタッフは整えられていると考えています。

大学は人々、そして国としての活力によって支えられなければ存続できません。同窓生の皆さんには学部の真の使命を直視し、知の生産物としての総合力が發揮できるように、強力な支援行動を期待したいと思っています。



総会開催のお知らせ

平成11、12年度総会を下記により開催します。多数のご参加をお願いいたします。

記

日 時 平成12年2月18日(金) 午後18時
場 所 青森市堤町1丁目
ホテル青森3階「あすなる」の間
懇親会費 3,000円
議 題 1. 平成9、10年度事業報告
2. 平成9、10年度会計報告
3. 農学生命科学部開設祝賀会経費支出について(事後承認)
4. 弘前大学同窓会創設基金の支

出について(事後承認)

5. 平成11、12年度事業計画(案)
6. 平成11、12年度予算(案)
7. 平成11、12年度役員選出
8. その他

総会終了後、懇親会を行います。出席者数を確認する必要がありますので2月10日までに下記連絡先にご連絡ください。

〒036-8561 弘前市文京町3

弘前大学農学生命科学部 齊藤 寛

Tel 0172-39-3791

E-mail kan@cc.hirosaki-u.ac.jp

Fax 0172-39-3849 (角野三好)

平成11、12年度会費納入のお願い

平成11、12年度の会費5,000円を同封の郵便振替用紙で納入ください。

納入された方に平成11年版の会員名簿を送付いたします。

会の会計状態は非常に逼迫しております。出費多大の折り、まことに心苦しいところではありますが、ご賢察の上、なにとぞよろしく願い申し上げます。

支部だより

宮城県支部発足会に出席して

平成10年7月25日（土）、仙台市ホテルサンルートにおいて宮城県支部の発足会および総会が開催されました。元教官の原田順厚先生を加え20名の同窓生の参加があり、大学から豊川学部長、角野が出席しました。司会に高山さん（植病49卒）が選出され、以下の方々がそれぞれの役職に選出されました。支部長：佐藤仁一（生化46卒）、世話人：葛原信太郎（農経46卒）、顧問：原田順厚先生（元教官）。この日の総会は宮城県支部の役員選出が主目的でした。議案に基づき総会が無事終了。総会での話題を簡単に述べると以下の通りでした。葛原さんの用意してくれた宮城県支部同窓会名簿から会員が約150名所属し

ていることが分かったので、今後活発な活動により、総会等の参加者を増やしていくことなどが決議されました。学部長から農学生命科学部の現状と今後の展望などについて、角野から各支部同窓会の活動状況や同窓会の現状などについてそれぞれ説明された。会場を移し、それぞれ参加者の卒業年の頃の先生や友達たちに思いを馳せながら当時の大学の思いで話に花を咲かせ、時間の許すまで2次会を開いていただきました。

宮城県支部の皆さん大変お世話になりありがとうございました。今後ますますの活動を期待しております。（文責：角野三好）

福島支部「わんどの会」に出席して

平成10年11月14日に第19回の「わんどの会」総会・懇親会が福島市飯坂「みちのく荘」において開催され、土壌肥科学の斎藤寛先生と農業機械の私福地が参加し、楽しい時間を過ごしてきました。ただ、この原稿の依頼を受けたのが11年の10月ですから、細かいことは忘れてしまい、福島支部の皆さんに失礼が無い心配しています。確か、それまで「わんどの会」には農業機械の教官が参加していないので来てくれないかと言う要請があったということで、私としては同窓会の支部会に参加するのはこれが初めてだったわけですが、機械の卒業生も数名いるようだと気軽な気持ちでお受けした次第です。しかし行ってみ

ると機械の卒業生は48年卒の持館君だけだったのですが、最近卒業した顔見知りの農業土木の卒業生の方たちが数名出席されていて、そう場違いでもないかななんて思っていました。もっとも酒が入ると初対面の畠沢国美会長（43年農工）や松本馨大先輩（39年）はじめ、宮城支部を作る準備のためと称して（失礼？）仙台から来られた葛原信太郎氏（41年農経）らとも、時間を忘れて話に花を咲かせていました。

順序が逆になりましたが、「わんどの会」の会員は約80名、昨年の報告を見ると60名となっていますので、この1年で20名も増えていることとなります。この日の出席者も前出



の大先輩から平成10年卒の中島雅樹君（土木）まで約30名と大盛会でありました。会の流れとして私も挨拶をさせられることになり、農学生命科学部の近況報告と、福島にはお酒の強い方が多いようなので、農学部からも学部の酒豪ナンバーワンとツーが来ましたなどと不埒なことを申し上げてきました。

翌日の日曜日は当然ながら二日酔いでしたが、すばらしい秋晴れの日でした。持館君と村松秀則氏（53年農地）の二人が五色沼や農道空港の見物や喜多方までラーメンを食べに

連れて行ってくれたりと一日付き合ってくれた。この紙面を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。またこのような機会を与えてくださった農学生命科学部同窓会と福島支部の梶澤会長はじめ役員の皆様方にも厚くお礼申し上げます。なお、この会報が出る頃には平成11年度の総会が20周年記念式典を兼ねて盛大に行われていることと思います。盛会を祈念し、「わんどの会」のますますの発展をお祈りいたします。（福地 博記）

東青支部会開催

本会の東青支部会が平成11年2月17日、支部会員約35名の参加を得て、青森市の「ホテル青森」で開催された。本部からは総務幹事の齊藤寛が出席した。

油川孝男本会会長の挨拶があった。齊藤から農学生命科学部の現況と同窓会がその設立に当たって大きな役割を果たした「弘前大学農学生命科学部後援会」の設立について説明した。次いで、永年東青支部の支部長を務めてこられた今村文一氏（農経33年卒）が青森

県信連を退職されたのを機に支部長を辞められることがはかられ、承認された。後任に清野哲司氏（農利41年卒、青森県経済連）が満場一致で選出された。

議事終了後、懇談会に入り、和気あいあいのうちに終了した。青森県庁農林部、農協四連、農業会議等青森県内の農業関係の職場で我が同窓生が多数活躍しており、しかもその中核的役割をしておられることを改めて感じさせられた一夜であった。（齊藤寛記）

宮城県支部同窓会参加報告

初秋さわやかな平成11年10月9日、宮城県支部2周年目の同窓会が開かれた。大学からは藤田先生と宮入が出席した。当日古川駅には“3年前なぜだか福島県支部会でもお会いしている”植病卒の高山さんが迎えに来てくれた。会場となったのはササニシキの里古川の北にある葉菜山の麓の“やくらい温泉”である。岩木山麓を思わせる高原のなかに突然一群の真新しい建物が現われた。玄関を入ると大先輩の葛原さん、そして私の研究室の先輩でもある支部長の佐藤さん、卒業以来となる同級生の熊谷君が出迎えてくれた。当日の出席者は10名で、みなさん私の世代かそれ以前ということで一番若い佐藤(健一)さん以外はみな髪が薄いか白いものが多い。同窓生が118名もいる支部にしては若い参加者が少ないのが残念であった。今回の案内状を送るに当たり若い人の郵便物のほとんどが返送されてきてしまい、連絡がとれたのはわずかであったとのこと。今ちょうど同窓会の幹事さんが名簿発行の準備をしているところだが、自分の研究室の分を見ただけでも改めて若い皆さんの住所変更と不明者の多さに驚かされる。何か

良い方法はないものかと思う。さて、出席者の顔触れは昭和36年卒の秋田、高橋両先輩にはじまり、葛原さん(41年)、小西さん(45年)、支部長の佐藤さん(46年)、同級の長田、熊谷、関川さん(47年)、高山さん(49年)、佐藤さん(59年)。総会そして懇親会の最後に参加者の近況報告を聞き、現在の厳しい社会事情をかいま見る思いであった。このあとカラオケについて、部屋で車座になり藤田先生が三浦酒造からじきじきに手に入れ持参した津軽の酒“今が花よ”を回し飲みしながら仕事の話、学生時代の思い出話に花が咲く、そして1時をまわるころには秋田さんの独演会となってしまった。宮城県支部発足にあたり、愛称を“けやぐの会”と名付けたそうで津軽弁の“友達”の意味だそうだ、みなさんやはり弘前で過ごした学生時代が一番なのであろう。ついでにつけ加えておくと参加者のうち少なくとも支部長を含め3人は弘前から奥さんをもらっているとのこと。改めて弘前はいいところだの声、わたしもここに生活する幸せを思い知った。(宮入一夫記)



福島支部「わんどの会」 創立20周年記念式典に参加して

平成11年11月6日、福島会の年次総会及び20周年記念式典が盛大に行われました。会場は飯坂温泉「あづま荘」で、32名が参加し、27名からメッセージが寄せられておりました（総会員数78名）。

同窓会本部からは豊川好司学部長、桜庭誠藏副会長及び工藤教官が来賓として参加し、隣の宮城支部・群馬県から秋田淳（36年卒）・金山和弘（H6年卒）両氏が参加されました。

記念式典は、尾形正式典幹事長の開会宣言の後、畠澤国美支部長の挨拶、豊川学部長・同窓会長（副会長代読）の祝辞、弘前大学創立50周年記念事業の報告（工藤）が行われ、「わんどの会」創立20周年記念講演は、豊川学部長が「農学生命科学部・生物共生教育研究センターの使命」と題して45分間熱弁をふるい、盛会裡に終了しました。

20周年のカードを持った記念写真撮影後は、「20周年記念花火打ち上げ」（長尾銃砲火薬店提供、長尾幸七：40年農経卒）がありました。10周年の花火を見た者として、今回ほど

ういう趣向の花火かと期待しておりましたが、びっくり仰天！浅虫の花火・青森のねぶた花火大会にも引けをとらない豪華なスターマインで、ドーンと20回も響きわたり、参会者一同も大満足！走行中の運転者が見惚れて事故を起こすのではないかと心配したほどでありました。長尾氏は公認会計士を擁し、長尾会計事務所も経営しており、頼もしい気分になりました。

午後7時から始まった祝賀会（大宴会）では、開会、支部長挨拶、松本馨初代支部長の音頭で乾杯、仕事の内容を含めた自己紹介、中縮めて進み、閉会となったが、瞬く間に過ぎた感じでした。一泊2日の良いところはこれからである。さらに場所を移し、話し・飲み足りない面を補い、50周年のビデオを観ながら午前2時頃まで続いたとか・・・？。途中でダウンしてゴメンナサイ。

「わんどの会」は県外出身者が多いという特徴があり、20数名を数え、その半数が参加しておりました。参会者は年次別（10年毎）のみ



と、約10名づつで20歳代が3分の1を占める等、非常にバランスのとれた会合であり、今後も活発な活動が期待できる様子を感じ取りました。

翌日は忙しい中、左右にリンゴ園・桃園・梨園を眺めながらドライブし、「農道空港」と「四季の里」を案内していただきました。これら施設の建設にも同窓生が関与していたことを伺い、頼もしいかぎりでした。特に荒川の支流を利用した清流・池を見学した感想は、弘前の土淵川にも清流が欲しいことなど話し合いながら帰路につきました。

福島駅まで付き合ってくれた畠澤支部長、往復の送迎と狭くて複雑な飯坂温泉街を案内

して下さった渡邊敏弘さん、大変お世話になりました。

同窓会支部として、支部長以外に顧問、事務局、方部幹事、式典幹事及び編集幹事を配置し、30頁の「わんどの会20周年記念誌」を発行する等、20周年記念事業を成功させたことには、ただただ脱帽してしまいました。

「コウゼン大学云々」と呼ばれた10周年記念から20周年記念へ、今では「わんどの会」会員のご努力により、正しく「ヒロサキ大学・・・」になっておりました。

「わんどの会」の益々の発展を祈って筆を置くことにします。有難うございました。

(工藤啓一記)

平成9・10年度卒業・修了生の就職先一覧

平成9年度卒業式は平成10年3月25日に、平成10年度卒業式は平成11年3月24日に弘前市民会館で行われ、その後同窓会主催の祝賀会が大学会館で行われた。

() 内の数字は人数

農学部

平成10年3月卒業生

生物資源科学科

国家公務員(3)、地方公務員(3)、公立学校教員(2)、NOK(株)(1)、(株)ケイビー(1)、岩手缶詰(株)(1)、(学法)千歳科学技大(1)、(株)テクノ(1)、日本食研(株)(1)、千秋庵製菓(株)(1)、(株)西友(1)、(株)天神屋富士工場(1)、丸彦製菓(株)(1)、小野薬品(株)(1)、(株)マイカル(1)、(株)アレフ(1)、野口観光(1)、アグロカネショウ(株)(1)、(株)木村食品工業(1)、吉田産業(株)(1)、雪印乳業(株)(1)

計 26名

農学生産科学科

地方公務員(3)、農業(1)、イトーヨーカ

堂流山支店(1)、藤井産業(株)(1)、北日本セキスイハイム(株)(1)、(株)みちのくオフィスサービス(1)、青森県経済農業共同組合(連)(1)、雪印乳業(株)(1)、小野薬品工業(株)(1)、九信製粉(株)(1)、(株)ツルハ(1)、日本食品科学(株)(1)、ピザリアニューエイジ(1)、名古屋青果(株)(1)、自営業(1)、モアガーデン(1)、荏原エンジニアリングサービス(株)(1)、MSK東急機械(株)(1)、ベルフーズ(株)(1)、(株)タカノフーズ(1)、(株)伊藤園(1)、ホワイト食品工業(株)(1)、青森県信用金庫(1)、ローソン(1)、谷口農場(1)、千秋庵製菓(株)(1)、塾講師(1)、娯楽業(1)、団体事務職員(1)

計 31名

農業システム工学科

国家公務員 (1)、地方公務員 (7)、岐阜セキスイハイム(株) (1)、(株)共立 (1)、山崎製パン(株) (1)、井関農機(株) (1)、(株)サトー技研 (1)、(株)大井総合技研 (1)、(株)大成コンサル (1)、アイシン機工(株) (1)、(株)藤村機器 (1)、(株)栗山製菓 (1)、近畿食品(株) (1)、ベルフル(株) (1)、かねさ(株) (1)、武田食糧(株) (1) 計 22名
合計 79名

平成11年3月卒業者**生物資源科学科**

国家公務員 (1)、地方公務員 (3)、岩手生物工学研究所 (1)、ホクレン (1)、青森定期自動車 (1)、シバタ医理科 (1)、(株)ニトリ (1)、雪印乳業(株) (1)、(株)菅文 (1)、(株)アイビック (1)、ハーバー(株) (1)、水戸日産モーター(株) (1)、伊藤ハムデイリー(株) (1)、(株)グルメ杵屋 (1)、(財)自然農法国際研究開発センター (1)、環境保全(株) (1)、HIROSE ELECTRIC (マレイシア) (1) 計 19名

農業生産科学科

地方公務員 (7)、(株)ユニバース (3)、中央出版(株) (2)、成田食品工業(株) (1)、山崎製パン (1)、CSK北海道システム(株) (1)、キンレイ (1)、三戸地方森林組合 (1)、伊藤ハム (1)、福島県卸売会社 (1)、明治飼糧 (1)、(株)平成フードサービス (1)、栃木県経済連 (1)、(株)岩果 (1)、(株)カルラ (1)、NECソフトウェア青森(株) (1)、スタジオOM青森ワークス(株) (1)、農協 (1)、ダイエー (1)、明治ケンコーハム(株) (1)、教員 (1)、農業 (2) 計 32名

農業システム工学

地方公務員 (9)、(株)佐竹製作所 (1)、木村園芸 (1)、オリンパス光学 (1)、(株)カトーコーポレーション (1)、(株)山本製作所 (1)、(株)システムエイド (1)、オリンパス光学工業

(株) (1)、(株)前川製作所 (1)、(株)伊藤組土建 (1)、(株)サンスイコンサルタント (1)、佐藤技研 (1) 計 20名
合計 71名

農学研究科**平成10年3月修了者****生物資源科学専攻**

国家公務員 (1)、地方公務員 (1)、私立学校職員 (1)、いなば食品(株) (1)、ゼネカ薬品 (1)、小岩井農場 (1)、醗酵工業(株) (1)、翻訳業 (1) 計 8名

農業生産科学専攻

国家公務員 (1)、地方公務員 (1)、公立学校教員 (2)、日本曹達(株)小田原研究所 (1)、日本甜菜製糖(株)札幌支社 (1)、日立東北ソフトウェア(株) (1)、もりやま園 (1) 計 8名

農業システム工学専攻

国家公務員 (1)、地方公務員 (1)、北陸航測(株) (1)、(株)ニシナ (1)、太陽コンサルタント (1) 計 5名
合計 21名

平成11年3月修了者**生物資源科学専攻**

地方公務員 (1)、(株)ニチロ (1)、トーアエイヨー(株) (1)、(財)食品環境検査協会 (1)、日本連合警備(株) (1) 計 5名

農業生産科学専攻

地方公務員 (2) 計 2名

農業システム工学専攻

地方公務員 (2) 計 2名
合計 9名



農学生命科学部後援会の設立にあたって

後援会長 桜庭 誠 蔵

21世紀の扉が開かれようとしている今日、皆様には各方面でいよいよ活躍のことと拝察いたします。私は昭和36年に農学部畜産教室を卒業して、弘前市役所農林部に勤務し、この3月に定年退職をしました。

去る、11年4月2日に農学生命科学部後援会設立総会が開催され、弘前在住であることなどから不肖私が会長に推挙されました。もとより、その器ではありませんが、会員皆様のご協力をいただきながら学部発展のため、微力を尽して参りたいと考えております。

まず、後援会設立に至った経緯と概要を簡単にお知らせいたします。新学部は、新しい時代に対応できる豊かな感性と、幅広い視野をもった国際的な人材の育成をめざしております。このため新しい時代に向けた、日本の将来を担う人材の育成と研究体制の整備が求められており、新学部は大学教育のあり方、大学院の整備充実、国際的な発展、そして科学技術創造立国実現のための学術展開と産学官連携の研究活性化など、体制の整備に努力しているところであります。

しかし、これら目標の具現化にあたっては、国の予算がまことに厳しく、大学施設の老朽化や教職員の削減など大学の苦難は一段と深まっております。このような状況の中で、農学生命科学部が個性的な学部として、社会に一層の貢献を果たし、発展することを願い、同窓会が諸般の状況を考慮して、10年11月10日に油川孝男同窓会々長を中心に学部後援会設立準備委員会を発足させました。

会の目的とするところは、学生達が厳しい勉学の中にも自由で明るく、そして将来の発展の可能性を引き出し、また感じさせることのできる環境作りを支援することが趣旨であります。

先に述べたように、国の予算措置が不十分なことから、国立大学のほとんどは、後援会を組織させて、そこから学生達に必要な各種事業の支援をしているのが実態であります。東北・北海道の農学系学部で後援会組織がないのは、唯一弘前大学のみであることから、委員会等を数回に亘って開き、事業内容等をいろいろ協議しながら設立総会を開催し、後援会の会則や事業計画、予算等を決定したところであります。

会則の中で、本会の目的は学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生向上を図ることであり、このための諸事業を定めております。会員は、本会の目的に賛同する者で通常会員と特別会員に分かれています。通常会員には、①農学生命科学部学生の保証人、②大学院農学研究科学生の保証人、特別会員には、①農学生命科学部の教職員、②理事会の推せんする者、③本会の主旨に賛同する者であります。

また本会の運営経費は、通常会員の会費及び篤志家、卒業生、企業などの寄付金等で賄うこととしています。

会費の額は、①学部学生の保証人30,000円、②学部第3年次編入学生の保証人15,000円、③大学院学生の保証人は15,000円であり、この会費は入学手続きの際一括納付となっております。

また、会には顧問を置くことも定められており、豊川好司学部長と油川同窓会長との2名が決まっております。

なお、会の役員は会長の他に副会長に2人の通常会員、この他理事には通常会員が6名、特別会員から3名、会計監事には特別会員から2名、幹事は特別会員から2名、合計16名となっております。

いずれにしても、望ましい学部環境を作るものであり、後援会の設立はそのための効果的な潤滑油としての役割を果たすものと確信いたしております。

どうか皆様には、後援会設立の趣旨を理解

いただきますとともに、何かとご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍とご多幸を心からお祈り申しあげまして、挨拶にかえさせていただきます。

弘前大学農学生命科学部 後援会の事業内容の紹介

弘前大学農学生命科学部地域環境科学科
後援会幹事 泉 完

弘前大学農学生命科学部後援会の第1回総会(定例総会)が、本学入学式当日の1999年4月2日に農学生命科学部で桜庭誠蔵後援会長(同窓会副会長)をはじめとする役員、通常会員および特別会員の方々多数参加のもと開催されました。後援会設立の趣旨は、桜庭会長から紹介されていますので、ここでは本後援会の事業内容を簡単に紹介させていただきます。

後援会の目的及び事業は会則によって、「本会は、農学生命科学部の教育及び運営に協力し、併せて学生、教職員の福利厚生向上を図ることを目的とする。(会則第3条)」、「1. 学生、教職員の福利厚生に関する事項、2. 教育研究に関する事項、3. 施設整備に関する事項、4. その他必要と認めた事項。(会則第4条)」となっております。

会員は、「本会の目的に賛同する、1. 通常会員(農学生命科学部学生、および大学院農学研究科学生の保証人) 2. 特別会員(農学生命科学部の教職員、理事会の推薦する者、および本会の趣旨に賛同する者)(会則第5条)」となっております。現在の会員数は、平成10年度および11年度入学の学部学生および大学院生の保証人様合わせて、約230名を数えております。現在の役員は会長含め15名で、本学部からは工藤啓一教官と小生(ともに同窓会員)が理事、佐々木長市教官が会計監事、また、豊川好司学部長および油川孝男

同窓会長が本会の顧問になっております。

定例総会は、毎年4月に開かれることになっており、第1回の総会で、農学生命科学部の教育・研究支援に関する事業、および弘前大学農学生命科学部後援会報の発行に関する事業計画が了承され、学部に対して事業費を計上しております。その主な事業費としては、

1. 学生の教育・研究・福利厚生に関する学生関係費
2. 教員に対する研究活動助成費
3. 学部のPR活動等の学部運営活動費
4. 学部の構内環境や施設を整備する施設整備関係費

の4項目です。すでに本学部では後援会の事業費を受け、高校生向けの学部PR用冊子を作成し、北東北、および北海道の主な高校に対してPR活動を実施しているとともに、構内環境の整備として正面玄関における学生の自転車の整理などを行っております。

後援会発足初年目ということで、何分不慣れな事が多いのですが、後援会の大きな事業の一つである「後援会報の発行」が定例総会に間に合うようになっております。同窓会会員皆様のご支援をいただければ幸いです。

以上、簡単ではありますが後援会の事業内容の紹介をさせていただきました。ありがとうございました。

弘前大学創立50周年記念事業

弘前大学創立50周年記念事業実行委員 工藤啓一

記念式典

平成11年6月5日午後2時から弘前文化センターで800人が出席して行われた。

弘前大学創立50周年記念式典曲『回想、そして輝かしき未来へ』（作曲・指揮：弘前大学教育学部 安達弘潮教授、演奏：弘前大学フィルハーモニー管弦楽団）の演奏で幕開けた後、次のように式次第が厳かに挙行された。（◎開会の辞：弘前大学副学長 水野裕）◎式辞：弘前大学長 吉田豊 ◎来賓祝辞：文部大臣 有馬朗人様（代読文部省学術国際局長 工藤智規様）、青森県知事 木村守男様、弘前大学同窓会長 東海林恒雄様、◎学生代表祝辞 教育学部4年黒沢恵理子様 ◎大学間交流協定締結校代表祝辞 ヒッペリオン大学長 ヨン・スプヌレスク様 ◎感謝状贈呈：白淵 勇様、牧野吉五郎様、東野修治様、手代木涉様（歴代学長） ◎創立50周年記念事業目録贈呈：弘前大学創立50周年記念事業後援会長 大道寺小三郎様（◎閉会の辞：弘前大学創立50周年式典等祝賀行事専門委員会委員長 内田健吾）

なお、式典参加者全員に、『写真で見る弘前大学の50年』、5月31日（弘前大学開学記念日）の『陸奥新報』8頁、『東奥日報』6頁、『デーリー東北』6頁の弘前大学創立50周年記念特集の紙面、弘前大学概要（平成11年度）及び校章を模したお菓子が配られた。

記念学術講演

記念式典後、江崎玲於奈氏（前筑波大学学長、現財団法人茨城県科学技術振興財団理事長）

より『一物理学者が歩んだ50年の道』と題した講演が行われ、「科学では新しいものが生まれるまでの個性的、創造的な過程が重要である」ことを強調された。

記念祝賀会

午後5時30分より、ホテルニューキャッスルで600人が出席し、盛大に行われた。弘前大学弦楽四重奏団の演奏で開幕し、吉田豊弘前大学長・大道寺小三郎弘前大学創立50周年記念事業後援会長の挨拶、金澤隆弘前市長（助役）・梅内敏浩青森県商工会議所連合会長の祝辞、祝電披露、鏡開き、白淵勇元弘前大学長による乾杯、祝宴として「津軽深浦北前太鼓」アトラクションがあり、和気藹々の歓談の後、最後は万歳三唱で締めくくった。

五十年史の出版

弘前大学50年の歩みを正確に記述し、弘前大学の将来を見通すための資料として、また地域において広く弘前大学を知っていただくため五十年史を刊行することになった。

本編『弘前大学五十年史 通史編』 A5版 659頁、平成11年12月20日発行

本編『弘前大学五十年史 資料編』 A5版 810頁、平成11年1月29日発行

別編『写真で見る弘前大学の50年』ビジュアル版 A4版 106頁、5月31日発行

なお、『通史編』は3,000円で、『資料編』は6,000円（セット価格9,000円）で頒布しており、『ビジュアル版』は弘前大学生協で1,000円で販売している。また、『ビジュアル版』は収支決算書とともに寄附者全員に送付するこ

とになっている。

記念講演会

一般市民を対象とした創立50周年記念講演会が弘前市、八戸市、青森市で開催された。

○弘前会場：6月2日弘前市民会館で記念演奏会と同時に開催し約700人が参加した。

記念演奏会：弘前大学吹奏楽団が『祝典のための序曲』他3曲（指揮 工藤隆夫教育学部専修生）、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団が『威風堂々 第一番』『回想、そして輝かしき未来へ』（指揮 安達弘潮教育学部教授）の演奏が行われた。

記念講演会

講演者：三浦朱門氏（元文化庁長官、恩賜賞・日本芸術院賞受賞者）

演題：『日本の教育、世界の教育』

○八戸会場：6月9日八戸市公会堂文化ホールで開催され、約620人の市民が参加した。

講演者：佐藤愛子氏（直木賞作家）

演題：『私の幸福論』

○青森会場：6月10日青森市民文化ホールで開催され、約250人の市民が参加した。

講演者：鈴木清順氏（映画監督）

演題：『清順よもや話』

インタビュー：杉山陸子氏
（企画集団プリズム代表）

50周年記念会館

平成10年11月6日、日本晴れの下で『弘前大学創立50周年記念会館』の安全祈願祭が、11年8月20日には予定より早く竣工し、平成11年9月4日に落成式が行われた（表紙写真）。

本館は、弘前大学附属図書館の真向かいに位置し（旧駐車場）、玄関は旧制弘前高等学校の講堂をイメージしたデザインで設計され

ている。また附属図書館とともに「開かれた大学」づくりの一翼を担う施設として利用されることになっている。

会館の内容は、1階が304席を有する『みちのくホール』、会議室、応接室、控え室、設備機械室及び事務室で、2階には放送大学が移転し（12月6日）、会議室(2)、談話室(2)及び図書・資料室で構成されている。

本館の柿落としは9月16日に『第7回 日露医学医療国際シンポジウム』が開催され、現在各種講演会・演奏会が企画されている。

農学部卒業生の寄附状況

平成9年6月に募金依頼の趣意書を発送後、大勢の同窓生から寄附金が寄せられました。不景気風が吹いている中でのご協力、誠にありがとうございました。

『弘前大学創立50周年記念事業実行委員会』に示された平成11年10月30日現在の各学部卒業生の寄附状況は下表のとおりであり、文京町キャンパスでは農学部卒業生の協力が最も高く、当初目標を上回りました。（次の目標は5年後の農学部50周年記念です）

学部名	趣意書 発送数	寄 附 者 数	寄附者 (%)	寄附金額 (円)
旧制弘高	2,220	443	20.2	12,220,000
文理学部	840	373	44.4	9,775,000
人文学部	3,144	266	8.5	4,323,000
教育学部	12,624	1,516	12.0	29,281,000
理 学 部	3,466	326	9.4	5,931,787
農 学 部	3,055	539	17.6	9,816,415
医 学 部	3,641	964	26.5	42,707,000
医療短大	4,190	272	6.1	5,892,000
合 計	33,464	4,704	14.1	119,946,202

弘前大学同窓会設立

平成11年6月4日付けで全学の同窓会を連合した「弘前大学同窓会」が設立された。これは吉田豊学長の発案によるものであるといわれている。紙面の都合で会則をすべて載せることはできないが、主要な部分を抜粋すると以下のようになる。

弘前大学同窓会会則

(名称)

第1条 本会は、弘前大学同窓会と称する。

(組織)

第2条 本会は、弘前大学及び弘前大学医療技術短期大学部（以下「大学」という。）の次の各号に掲げる同窓会及び卒業生をもって組織する。

- (1) 弘前大学人文学部同窓会
- (2) 弘前大学教育学部同窓会
- (3) 弘前大学医学部鵬桜会
- (4) 弘前大学理学部同窓会
- (5) 弘前大学農学生命科学部同窓会
- (6) 弘前大学医療技術短期大学部各同窓会
- (7) 弘前大学文理学部同窓生

(目的)

第3条 本会は、各同窓会が密接な連携の下に、相互の啓発を行い、大学の教育研究活動の支援を行うことにより、各同窓会及び大学の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 同窓会相互の親睦を図る事業
- (2) 大学の教育研究活動に対する支援事業
- (3) 大学の教育研究環境の整備に対する支援事業
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(役員)

第5条

- (1) 理事 14名（うち、会長1名及び副会長若干名）
- (2) 監事 2名

第6条～第12条 省略

(資金)

第13条 本会の資金は、各同窓会からの会費その他の収入をもって充てる。

2 前項の会費については、別に定める。

以下省略

役員は以下の通りである。

会 長	東海林 恒 雄	東京同窓会会長
副会長	木 村 清之助	教育学部同窓会長
副会長	石戸谷 忻 一	医学部鵬桜会理事長
副会長	油 川 孝 男	農学生命科学部同窓会長
理 事	千代谷 満	人文学部同窓会長
理 事	長 尾 至 孝	理学部同窓会長
理 事	佐 藤 ア エ	医療技術短期大学部各同窓会代表
事務局長	工 藤 睦 男	教育学部同窓会副会長

第13条の会費は新入生1人あたり1,000円負担するようになっており、農学生命科学部の入学定員は185名であることにより本会の負担は185,000円となり、平成12年度から納入することとなった。また、弘前大学同窓会設立基金として教育学部同窓会200万円、医学部同窓会100万円、農学生命科学部同窓会50万円の納入が求められ、了承した。以上のことを会長先決で行ったが、総会で了承を求める予定であるのでご理解いただきたい。

弘前大学同窓会の具体的な事業として会誌の発行があり、編集委員2名の選出が求めら

れている。また、「弘前大学創立50周年記念会館開館記念音楽会—伝統と創造—」が弘前大学同窓会の主催で開催される。第1回は平成11年11月5日に弘前大学創立50周年記念会館 みちのくホールで開催された。当日のプログラムは、津軽弁による小オペラ『茶飲み話コ』、津軽民謡一口説き節を中心に一であった。第2回は平成11年12月5日に『錦風流尺八と打楽器の世界』、第3回は平成12年3月に『津軽伝承の平家琵琶と津軽の詩による歌曲』を予定している。(斎藤寛記)

教官人事

昇 任

大町 鉄雄 教授 (細胞工学講座)	平成10年4月1日
石黒 誠一 教授 (細胞工学講座)	平成11年5月1日
工藤 明 教授 (地域環境工学講座)	平成10年4月1日

新 任

吉田 渉 助手 (生命理学講座)	平成10年7月1日
殿内 暁夫 助手 (生体機能工学講座)	平成10年4月1日
橋本 勝 助教授 (生体情報工学講座)	平成10年4月1日

石黒 誠一 助教授 (細胞工学講座)

平成10年4月1日

加藤 幸 助手 (地域環境工学講座)

平成10年3月1日

檜垣 大助 助教授 (地域環境計画学講座)

平成10年10月1日

泉谷 真実 助教授 (地域資源経営学講座)

平成10年10月1日

退 官

木村 繁昭 助手 (植物エネルギー工学講座)

平成10年12月20日

転 出

玉 真之介 助教授 (地域資源経営学講座)

岩手大学大学院連合農学研究科 教授

平成10年10月1日

新任教官の自己紹介



吉田 渉 助手 (生命理学講座)

北海道出身。1996年東北大学大学院医学研究科博士課程修了 (医学博士)。1999年6月までロース・プーラン ローラー株式会社 (仏、製薬企業) に勤務。専門は分子発生学です。現在、初期発生と再生の両面から動物のボディープランの研究を行っております。弘前は学生時代からの馴染みのある町であり、この情緒ある弘前で充実した生活を送っております。これから大学という研究・教育の場で頑張っていきますので、よろしくお願い致します。



殿内 暁夫 助手 (生体機能工学講座)

一昨年平成10年の4月に赴任してきて早一年と半年がすぎました。学生時代は十年近く福岡に在住し、卒業後はしばらく茨城県のつくば市に住んでいました。東北というのは自分ではまったく地図上の存在で、しかも青森といえば「雪」「林檎」「八甲田」というイメージしかもっておらず、住むことになるとは思ってもいませんでした。しかし、いざ住んでみれば食べ物は美味しいし、風光明媚でしかも美人が多いという、寒すぎるという点を除けばこれまで住んだ土地のなかでも最高の場所でもあります。しばらくはこの土地に居て研究を行っていこうと考えています。



橋本 勝 助教授 (生体情報工学講座)

弘前大学農学生命科学部に赴任して1年半が経とうとしております。これまで、制癌作用など強い生理活性を持ち、かつ複雑な構造を有する有機化合物の合成を中心に研究を展開してまいりました。生命科学分野では、遺伝子や蛋白質といった研究が盛んに行われていますが、ステロイドなどの生体内で生成する第二次代謝物と呼ばれる比較的小さな化学物質の多くも生命維持に直接関与しております。これら物質の化学的性質・生体内での役割を理解し、生命の不思議を化学の言葉で解明することを目標にがんばっていきたくと思っています。よろしくお願い致します。



石黒 誠一 教授 (細胞工学講座)

東北大学理学部生物学科で約10年間発生生物学を勉強し、東北大学医学部に就職してからの約20年間は視覚の研究を行ってきました。平成10年4月から弘前大学農学生命科学部で新たに研究をスタートし、現在4人の学生と共に一つの部屋で研究生活を楽しんでいます。研究課題は網膜の生理・代謝で、特に眼の病気にも関わるビタミンAの代謝に注目しています。昔は結構釣りや音楽を趣味にしていたのですが、最近はおっぱら美味しいものを食べるのが趣味になりました。



加藤 幸 助 手 (地域環境工学講座)

一昨年の3月に赴任しました地域環境科学科の加藤 幸と申します。私の場合、新任とはいっても、弘大の卒業ですので学部の4年間、修士課程2年間、連合大学院3年間、学振特別研究員1年間と赴任した時点で、すでに10年大学において弘大の学生の特徴については良く理解しているつもりです。また、現時点で農学生命科学部では最も若い教官ということで、学生の良き相談相手にでもなれればと考えております。

現在の研究は、地下水流動の解析ということで、地皮下にあり直接は目に見えない地下水面やその動きを模型実験やPCでのシミュレーションにより把握し、農業や環境保全に役立てることを目的として行っております。

若輩者のため、いろいろとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、諸先生方のご指導を賜りながら頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



檜垣 大 助 助教授 (地域環境計画学講座)

1953年札幌市生まれ、一昨年10月に地域環境科学科地域環境計画学講座に着任致しました。専門は地形学・砂防学です。東北大学大学院を終えてから16年間役所(建設省)勤めをしていまして、この1年間は講義の準備に四苦八苦しました。

地域・環境への取り組みには、いろいろな分野からの多面的アプローチが重要と思っております。着任前2年間防災技術援助プロジェクトの仕事でネパールにりましたが、地域環境の悪化は恐ろしい速さで進んでいて、その解決には地域レベルでの取り組みが重要なのを痛感しました。Think globally, Act locally. の精神で頑張りたいと思っております。趣味はスキー、特に春山スキーが楽しみです。今後とも宜しくお願いいたします。



泉 谷 眞 実 助教授 (地域資源経営学講座)

同窓会の皆様、初めまして。一昨年の10月から本学部に赴任してまいりました泉谷です。北海道の、かつては港町、現在は観光の町、石原裕次郎記念館で有名(?)な小樽市生まれです。生まれも育ちも北海道(道産子)で、津軽海峡を越えて暮らすのは初めてです。

専門は農業市場学です。現在は、①農畜産物市場構造の変化が産地に与える影響について、②農業・食料市場における生物系廃棄物のリサイクル問題について、③農村の雇用問題について、の経済学的な実証研究を行っています。

赴任早々、教員の任期制導入の話や、国立大学の独立行政法人化の話などを聞き、戦々恐々と毎日を過ごしております。不安もありますが、教育・研究に精一杯の努力をしますので、よろしくご願ひ申し上げます。

訃 報

音羽道三(元教官:H10.6)、伊藤一俊(S44作物:H10.9)、伴康一(S33畜産:H11.1)、吉尾晴雄(S35畜産:H11.6)、葛西明男(S39農経:H11.6)

上記の方々が御逝去なさいました。慎んで御冥福をお祈り致します。